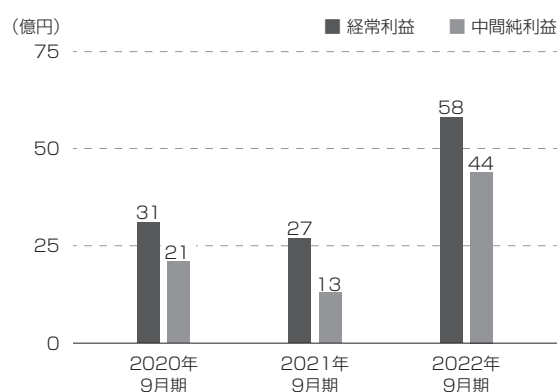
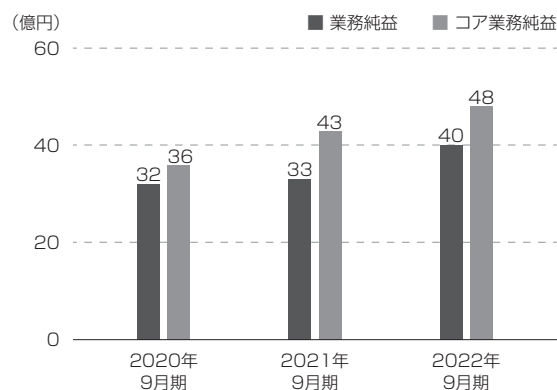


業績ハイライト(沖縄銀行・単体)

損益状況

2022年度中間期の業務純益は、貸出金利息が減少したものの、資金利益の増加及び経費減少により前年同期比7億円増加の40億円となりました。なお、本業の収益力を示すコア業務純益につきましては、前年同期比5億円増加の48億円となりました。

経常利益は、業務純益の増加に加え、株式等関係損益の増加及び与信費用の減少により、前年同期比31億円増加の58億円となり、最終の中間純利益は前年同期比31億円増加の44億円となりました。



用語解説

【業務純益】

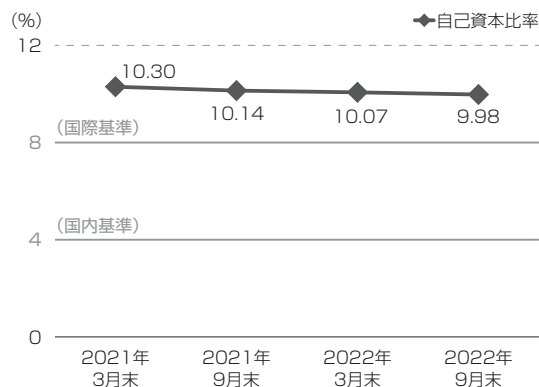
銀行の本来業務(預金・貸出など)で得た利益を表すもので、一般企業の「営業利益」に相当します。

【コア業務純益】

業務純益から「一般貸倒引当金繰入額」、「国債等債券関係損益」など大きな変動要因を除いた純粋な収益を表すものです。

自己資本比率

銀行経営の健全性・安全性を測る上で重要な指標のひとつである自己資本比率は、2022年9月末において9.98%となっており、国内基準の4%を大きく上回っています。



用語解説

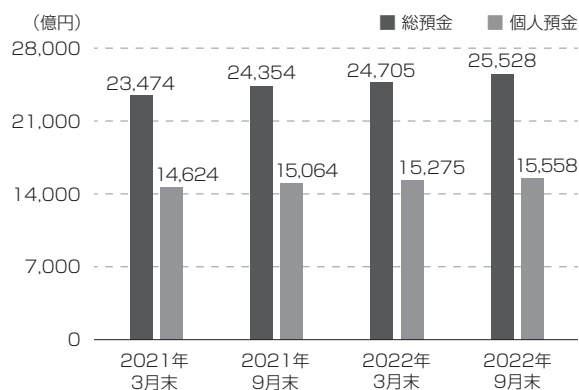
【自己資本比率】

自己資本比率告示に基づき、総資産に占める自己資本の割合で、銀行の健全性を示す重要な指標の一つであり、比率が高いほど安定した経営といえます。なお、海外に営業拠点を持つ銀行は8%以上(国際基準)、当行のように海外に営業拠点を持たない銀行は4%以上(国内基準)であることが求められています。

預金

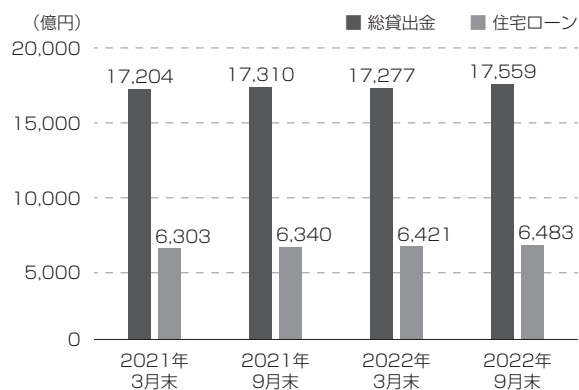
2022年度中間期末の総預金残高は、これまでの個人預金を中心とした取引推進、法人取引先へのSR(ストロングリレーション)活動による取引深耕・従業員取引の推進に加え、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う法人・個人の手元資金確保の動きにより流動性預金が増加した結果、銀行・信託勘定合計で前年度末比823億円増加の2兆5,528億円となりました。

当行では、多様化する資産運用ニーズにお応えするために、国債や投資信託、個人年金保険などを取り扱っており、お客さまの資産形成を積極的にサポートしています。



貸出金

2022年度中間期末の総貸出金残高は、住宅ローンの増加や地公体向け貸出の増加に加え、事業性貸出についても事業性評価に基づいた推進やコロナ禍における県内企業の支援に積極的に取り組んだ結果、銀行・信託勘定合計で前年度末比282億円増加の1兆7,559億円となりました。



有価証券

有価証券は、国内債券及び投資信託等を中心に、金融市場動向を睨みながら資金の効率的運用に努めた結果、期末残高は前年度末比299億円増加の4,857億円、有価証券全体の評価損益は前年度比123億円減少の△78億円となりました。なお、2022年度中間期の有価証券運用に伴う利息・配当金収入は21億円となっております。

